



SAKAI Peace Contribution Award

第7回

自由都市・堺 平和貢献賞

The 7th SAKAI Peace Contribution Award

報告書

Report



目 次

ごあいさつ

堺市長 永藤 英機	1
-----------	---

自由都市・堺 平和貢献賞について	2
------------------	---

授賞団体

NGOベトナムの子ども達を支援する会	3
--------------------	---

特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会	6
-----------------------	---

授賞式の様子	9
--------	---

これまでの授賞者・授賞団体紹介	9
-----------------	---



ごあいさつ

堺市長 永藤 英機

今年は、世界中で国境や人種を問わず、新型コロナウイルスの感染拡大による多大な影響が生じ、第二次世界大戦以降、最も過酷な苦難に直面しました。当面、心から安心できない状況が続くものと思われますが、このような状況だからこそ、私たちは全ての人類を救うために何をすべきかを考え、それを実現するために世界中で広く協働しなければなりません。世界人権宣言が採択され、21世紀を「平和と人権の世紀」とするための努力が続けられています。しかし現在においても、世界では、紛争や貧困、飢餓や人権侵害などにより、多くの人々の生命や尊厳が脅かされています。

堺市では、昭和55(1980)年に、人権擁護都市を宣言し、昭和58(1983)年に市議会による非核平和都市宣言に関する決議を行い、平成19(2007)年には堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例を施行しました。そして、翌年にこの条例の理念に基づき、自由都市・堺 平和貢献賞を創設しました。アジア・太平洋地域の平和に貢献された方々を顕彰することを通じ、堺から世界に向けて、市民の皆様をはじめ多くの方々に、国際平和の重要性を発信しているところです。

今般、第7回自由都市・堺 平和貢献賞の授賞団体が決定いたしました。授賞団体は、NGO ベトナムの子ども達を支援する会及び特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会です。NGO ベトナムの子ども達を支援する会は、国や地元政府に働きかけ、ベトナムで母子健康手帳を配布・普及するなど、ベトナムの子どもたちを支援している団体です。また、特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会は、日本で使用されなくなった車いすを集め、発展途上国の障害者に、海外旅行をする人が届ける活動をしている団体です。

2つの団体の活動内容は異なりますが、両団体がめざすもの、そして堺市がめざすものは同じ、『国際平和の実現』です。授賞団体の皆様の功績を称え、授賞式を挙行できたことを、大変嬉しく思っています。

一人ひとりの力が、誰一人取り残さない平和な世界を実現します。この賞を契機に、市民の皆様に、誰もが安心して幸せに暮らすことができる平和社会の実現のために、自分には何ができるのかを、考えていただければ幸いです。

最後に、第7回自由都市・堺 平和貢献賞の授賞にあたり、多大なるご尽力を賜りました選考委員の皆様及びご協力いただきましたすべての皆様に、心からお礼申し上げます。

自由都市・堺 平和貢献賞について

(1) 事業概要

平和の実現及び人権課題の解決に向けて積極的に取り組んできた堺市は、平成18(2006)年の政令指定都市移行を契機に、国際平和の実現と維持をめざし、平和と人権の大切さを国内外に発信し、平和社会の実現に寄与することを目的として、平成19(2007)年1月に堺市平和と人権を尊重するまちづくり条例を施行しました。

この条例の理念に基づき、平和と人権尊重の重要性を発信し、市民の皆様をはじめ多くの人に国際協力、貢献活動に対する理解と認識を深めていただくとともに、世界で行われているさまざまな活動を支援し、一層の発展につなげ、都市として国際貢献を図ることを目的に、自由都市・堺 平和貢献賞を創設しました。

堺市は、自由都市・堺 平和貢献賞を通じて、国際平和の重要性をアジア・太平洋地域から世界に発信していきます。

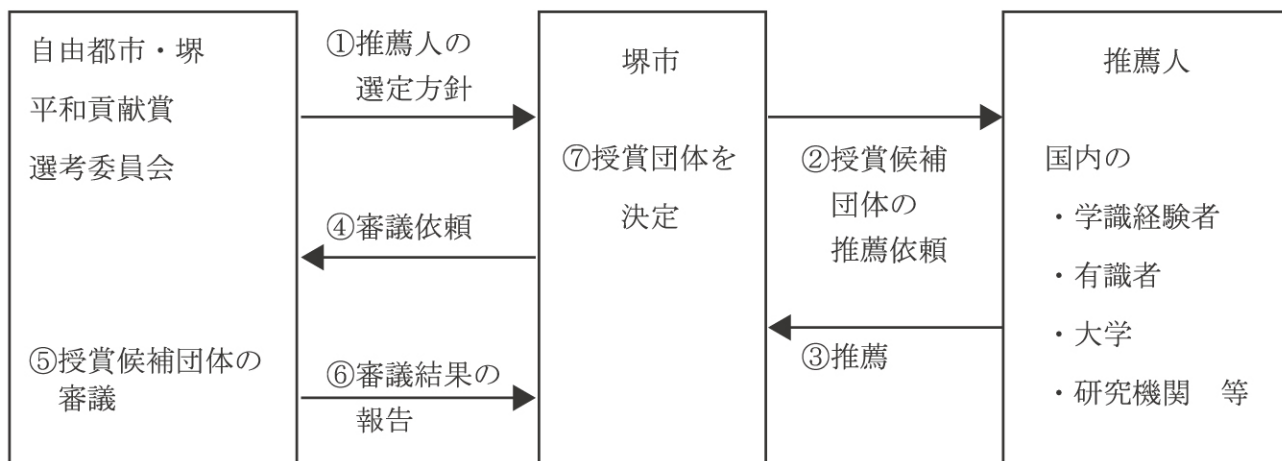
(2) 顕彰の対象

アジア・太平洋地域で国際的な平和貢献活動を行った団体

※第4回までは、国内外の個人又は団体を顕彰。第5回からは、国内の団体を顕彰。

(3) 選考の方法

国内の学識経験者、有識者、大学、研究機関等に授賞候補団体の推薦を依頼。推薦された候補団体を有識者で構成された選考委員会に諮り、その意見を踏まえ、市が2年に1回授賞団体を決定。



NGOベトナムの子ども達を支援する会



授賞団体紹介

○代表者：会長 関谷 滋 氏

○活動歴：

- ・平成2(1990)年 4月30日～ ベトナムベンチェ省の障がいのある子ども達の支援のためにNGOベトナムの子ども達を支援する会を設立
以降、障がい児学校と病院の建設、村診療所の医療機材提供に取り組み、資金面での協力とあわせて、村々で障がい児の診察活動を開始
- ・平成10(1998)年 ベンチェ省保健局へ母子健康手帳の使用を提案（平成16（2004）年には省内全村で使用）
- ・平成15(2003)年 ベトナム大統領友好勲章を受章
- ・平成28(2016)年 障がい幼児用の早期介入センターの設置
- ・～現在 現地からの要請もあり、障がいのある子ども達のための医療、教育及び地域での人材養成を主な活動としている

授賞理由

ベトナムの国や地方政府に働きかけ、日本発の「母子健康手帳」制度をベトナム国内に普及させた。また、障害児に対して、建物の建設等のハード面のみならず、研修を通じた人材育成等のソフト面の取り組みも意義深く、今後の発展性や持続性も期待できる。

さらに、ベトナム総領事館が堺市にあることや、近畿圏である京都市に所在する団体であるため、堺市民が身近に感じ、意識や行動の変容に大きく寄与するものとして高く評価する。

活動のきっかけ

30年前、当会事務局長である板東は、京都市特別支援学級の教員をしていました。「海外の障がいのある子ども達の実情を知りたい」と1990年3月ベトナムベンチェ省を訪問しました。ベトナム戦争終結後15年を経ても電気もなく、医療設備も不足する厳しい環境の中で、懸命に生きている4人の障がいのある子ども達やご家族に会う事ができました。加えて、自らの給与を出し合い、その子ども達に学校を建設したいと計画していたベンチェ省行政幹部の方々の熱意に、深く心を動かされました。私達にもできることはないかと考える中で、障がいのある子ども達のために、学校建設協力資金を集め始めたことが、当会設立のきっかけでした。

目的やこれまでの取り組み

設立当初は、ベンチェ省立障がい児学校建設・設備・備品提供に続き、省立病院小児科やリハビリ科建設・設備・備品提供、そして省内約3分の1の村診療所へ母子保健機材の提供、リハビリ用機材を備えたリハビリルーム開設などハード面の協力が続きました。1998年には日本発祥である母子健康手帳の導入を提案し、ベンチェ省で活用されています。その母子健康手帳制度は、その後、ボトムアップでベトナム政府保健省事業となり、今年から全国展開されています。

そして、現在は、現地の要望により、医療分野（ハイリスク新生児ケア、小児救命救急ケア、小児腎臓疾患ケア、リハビリテーション）、教育分野（早期療育センター開設、障がい児学校・幼稚園・特別支援学級設置に向けた一般小学校教員研修）、地域分野（障がい者重度あるいは幼いという理由で、在宅状況の子ども達のために各集落で活動する地域保健管理員の研修）という3分野で、研修資料作成や技術協力を実施しています。



ベトナム保健省が
作成した2020年版全国用母子健康手帳



省立病院リハビリ科研修会

大切にしていることや将来の展望

ベンチェ省はメコンデルタにあり、唯一他省と陸続きではない貧しい省でした。現地では、以前から「子ども達は未来をつくる大切な存在」として位置づけ、次々と新規事業提案がされ、当会も協働してきました。最近は、省の経済的な発展に伴い、私達は、ソフト面の協力へ移行しています。「地域に根ざしたリハビリ」として、地域住民と共に、縦割り行政の壁を越えて、関連局が一体化して活動されるベンチェ省の熱心さに、学ばせていただくことがとても多く、「援助する側・される側という関係性」は皆無です。「自分の命は何のために使うのか、どのように人とつながって事業をするのか」など学ばせていただいたことは、数知れません。

2019年、一般校における特別支援学級制度の提案を行い、ベトナム政府教育研修省の指導や、ベンチェ省主導の下に、パイロット校設置の技術協力を行いました。これが順調に進めば、将来ベトナム全土に普及される、2つ目のボトムアップとなることが期待されています。

授賞の感想や授賞団体にとっての賞の意味

30年間続いたベトナム戦争で疲弊したベンチェ省に、私達は1990年から30年間、毎年複数回訪問し、その復興・発展過程を見てきました。「戦争は障がいのある人達をうみ出す大きな要因ですが、平和は障がいのある人達をも社会の一員として受け入れて、共に新しい未来を作ること」だということを、私達はベンチェ省の方々から、30年間の活動を通じて学ばせていただきました。この栄えある自由都市・堺 平和貢献賞を、平和の尊さをよくご存じのベンチェ省の皆様と共に噛み締め、これからの子ども達の未来の糧としていきたいと思っています。

堺市の思い

現在は、ベトナムのベンチェ省を中心に、障害のある子どもたちに継続的な支援をしています。

母子健康手帳という日本発の子どもを守る考え方を、ベトナムに普及し、子どもたちを支援するという取り組みからは、学ぶことが多くあります。



特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会



授賞団体紹介

○代表者：代表理事 吉田 三千代 氏

○活動歴：

- ・平成10(1998)年5月17日 「飛んでけ！車いす」の会設立
- ・平成14(2002)年 第1回パートナーシップ大賞 受賞
- ・平成16(2004)年 外務省NGO活動環境整備支援事業（NGO相談員）受託
- ・平成19(2007)年 日タイ障がい者フォーラム開催
- ・平成26(2014)年 札幌市内向け「車いす利用者のためのバスガイドブック」作成
- ・平成27(2015)年 読売福祉文化賞（読売光と愛の事業団）受賞
- ・平成29(2017)年 道新ボランティア奨励賞（北海道新聞社会福祉振興基金）
- ・平成30(2018)年 設立20周年記念講演会、「もってけ！車いす」若者派遣事業
JICA草の根協力事業『車いす整備・修理技術の移転in Bali』スタート
- ・～現在 3,000台めの車いすがベトナムに運ばれる

授賞理由

日本で使用されなくなった車いすを集め、利用者のニーズに合わせて整備し、発展途上国の障害者に、海外旅行をする人が届けるという活動を、20年以上地道に行っている。設立以来、80か国以上に3,000台を超える車いすを届けている。

このような活動は、障害者の自立を支援し、さらに、旅行者が届けるという特色ある活動は、堺市民にとって、国際協力への関心を深めるきっかけになることが期待できるものとして高く評価する。

活動のきっかけ

1997年に訪問したバングラデシュとネパールで現地の障がい児・者と出会い、車いすがあれば「学校に行ける」「お祭りに参加できる」など生活が広がると私（吉田）は思いました。車いすは養護学校では余っている物もありましたが、船便送料は高く、頓挫しそうになりました。その時に友人から、北海道大学医学部4年（当時）の柳生さんを紹介してもらいました。彼はゼミ旅行で、アジア2か国に車いすを、預け入れ手荷物として運び、先方に喜ばれたという体験がありました。旅行者がボランティアとして気軽に運べ、お金もかからないという素敵なアイデアです。私と柳生さんが中心となり、1998年5月に会を設立しました。

目的やこれまでの取り組み

「私たちは、障がいや国境の垣根を越え、誰もがその人らしく生きる社会の実現をめざします」というビジョンのもと、日本で使われなくなった車いすを集め、整備・修理をし、海外旅行をする旅行者の手荷物として、発展途上国の病院や施設に、直接送り届ける活動をしています。これまで、世界81か国に3,000台以上の車いすを、受領者の身体やニーズに合わせて、一台、一台丁寧に届けています。届けた国へのスタディーツアーや聞き取り調査をきっかけに、2015年からは海外で「車いす整備・修理講座」を開催しており、現地で人材育成をして、より長く、安全に乗っていただける取り組みをしています。

また、国内でも車いすの貸出や整備サービス、「車いすの学校」という整備講習プログラムの展開により、公共福祉や社会のはざまにいる方たちへの支援も始めています。



バリ島整備講座



セブ島に届いた車いすと運んだ旅行者

大切にしていることや将来の展望

当会は特定非営利活動法人としては老舗で、社会的な活動をしている団体ですが、ボランティアと会員の方たちによって支えられています。本当にありがたいと思います。車いすの整備ボランティアの最高齢は82歳で、会員も初期のころから支援いただいている方は、シニア世代が多くなりました。「車いす」というキーワードを通して、やりがいや情報を共有し、双方向の交流をめざしてきました。

継続には世代交代が必要ですが、少し増えてきた学生ボランティア、社会人ボランティアが力になってくれれば、今後も続けていけるだろうと思います。世界中で車いすが必要な人は、7,000万人というWHOの統計もあります。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、旅行者はいませんが、船便のコンテナに数台ずつ運んでくれる会社が2社、支援を始めてくれました。

授賞の感想や授賞団体にとっての賞の意味

地味な活動を続けている、北海道にある小さな団体を、みつけていただいたことに感謝します。堺市が、その歴史とともに、国際的な人権・平和活動を続けてこられたことを、知りました。私たちの活動の根底にあるビジョンも同じ源流ですが、賞をいただくことで、改めて団体内で問い直してみたいと思います。車いす一台、一台は、世界のニーズにとっては、大河の一滴ですが、長く続けることで、こんなうれしいこともあるのですね。ありがとうございます。

堺市の思い

車いすをリサイクルし、海外旅行をする人が届けるという、特色ある活動をしています。

届けることを依頼された人は、国際協力に関心を深めたり、一層国際活動に取り組むようになるなど、人材育成も図っているところが非常に意義深いと考えています。



授賞式の様子

開催日：令和2(2020)年9月3日 場所：秘書課応接室

出席者：授賞団体代表者、選考委員長 寺迫 正廣 氏

○NGOベトナムの子ども達を支援する会（関谷 滋 氏、板東 あけみ 氏）

【団体挨拶】この度は、ありがとうございました。数日前には、活動しているベンチェ省のリーダーからも、お祝いのメッセージが届きました。ベンチェ省の人たちはとても気持ちが温かく、新鮮な発想をしています。30年経った今でも、私たちは、現地で活動をしている中で、勉強させていただくことが多くあります。

○特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会（吉田 三千代 氏、照井 レナ 氏）

【団体挨拶】私たちはとても小さな団体の活動なのですが、20年間活動が続けてきました。車いすを預かって、相手の体に合わせて、サイズも全部合わせて、どんな症状か聞きながら、整備して届けている団体は、日本でも珍しいと思っています。堺市と交流のあるベトナムや中国に、たくさん車いすを届けているので、とても光栄なことです。



これまでの授賞者・授賞団体紹介

- 第1回【平成20年】 大 賞 ジハン・ペレラ 氏（平和活動家）
奨励賞 吉岡 秀人 氏（医師）
奨励賞 特定非営利活動法人 日本ネパール女性教育協会
- 第2回【平成22年】 大 賞 田内 基 氏（ソーシャルワーカー）
奨励賞 長瀬 アガリン 氏（KAFIN（川口フィリピン人会）代表）
奨励賞 NGO アフガン孤児支援 ラーラ会
- 第3回【平成24年】 大 賞 アウンサンスーチー 氏（民主化運動指導者）
大 賞 台湾赤十字組織
奨励賞 松居 友 氏（ミンダナオ子ども図書館館長）
- 第4回【平成26年】 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか
特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
- 第5回【平成28年】 特定非営利活動法人 AAF(Asian Architecture Friendship)
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima
- 第6回【平成30年】 佐喜眞美術館
Philippine Children's Project (PCP)

※第4回から大賞・奨励賞の区分を廃止。



堺市 市民人権局 人権部 人権推進課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

電話 072-228-7420 FAX 072-228-8070

電子メール jinkensui@city.sakai.lg.jp

堺市ホームページ <http://www.city.sakai.lg.jp/>

堺市配架資料番号 1-D1-20-0196

令和2年(2020)年10月発行